







中小企業景況調査の集計分析（2022.01～03月期）

全産業DI	全国（n：約8,000社）			河辺雄和（n：15社）		
	DI	前期比	天気図	DI	前期比	天気図
売上額	△34.2	-10.9		△40.0	-20.0	
採算	△43.2	-12.2		△46.7	±0	
資金繰り	△25.7	-7.3		△20.0	-6.7	

全国の分析コメント

出典：全国商工会連合会「中小企業景況調査報告書」

全業種

- △ 全産業の3DIが前期水準から悪化した。
- △ 特に、売上額と採算は前期から2桁ポイントの大きな下落となった。
- △ 経営上の問題点では、4業種全てが「需要の停滞」を挙げており、特に、小売業とサービス業では2020年から一貫して1位を維持している。
- △ 世界的な原材料不足やエネルギー価格の高騰、円安傾向などを背景として、原材料や仕入れ単価の上昇といったコスト面の問題を挙げる経営者が4業種全てで増加している。
- △ 新型コロナウイルス感染の動向に加え、ロシアによるウクライナ侵攻の影響など、今後の見通しには不透明なところも多く、中小企業の先行きにも警戒感が続いている。

製造業

- △ 「輸送用機械器具製造業」「精密機械器具製造業」などで前期比2桁ポイントと大きく悪化した。
- 「飲料・飼料・たばこ製造業」「木材・木製品製造業」などでは対前期プラスの改善だった。
- △ 「原材料価格の上昇」「材料価格の上昇」を1番の問題点と指摘する経営者が3割を超えている。

建設業

小売業

サービス業

- △ 3DIの悪化は全産業の中でも特にサービス業の低下幅が2桁ポイントと大きかった。
- △ 悪化の原因は、1月に発令されたまん延防止等重点措置に伴う影響が推測される。
- △ 中でも「飲食業」や「宿泊業」などは前回10～12月期に大きく改善した業種が再び悪化に転じた。

= 天気図の解説 =

				
DI30以上	DI10以上 30未満	DI△10以上 10未満	DI△30超 △10未満	DI△30以下

(注) DI（景気動向指数）は、各調査項目について増加（好転）企業の割合から減少（悪化）企業の割合を差引いた値を示す。